

アルミバン S

(スライドリフトスマーティ)

取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。



はじめに

このたびはアルミバン S（スライドリフトスマーティ）をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はアルミバン S を安全・快適にお使いいただくため、アルミバン S 独自の装備に関して正しい取り扱いを説明してあります。

また、アルミバン S 装備の点検・手入れについても記載してありますので、ご使用前に必ずお読みください。

- 車両の一般的な取り扱いについては、標準車の「取扱書」（別冊）をご覧ください。
- 販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては添付されている取扱書をご覧ください。
- 安全・快適にお使いいただくため「まず読みましょう」は重要ですのでしっかりお読みください。

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」とその回避方法を下記の表示で記載しています。これらは安全のために特に重要ですので、必ず読んで遵守してください。

 警告	記載事項をお守りいただかないと、生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあること
 注意	記載事項をお守りいただかないと、傷害、事故につながるおそれがあること

お車のために必ず守っていただきたいことや知っておくと便利なこと、してはならない行為を示すイラストは、下記の表示で記載しています。

 アドバイス	お車の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと お車が故障したときにしていただきたいこと
 知識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	してはならない行為

- ・お車をゆずられるときは次のオーナーのために本書をお車につけておいてください。
- ・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

CONTENTS (目次)

まず読みましょう	2
----------------	---

各部の名称	7
-------------	---

主要諸元	8
------------	---

リフト能力	8
-------------	---

専用装置、装備の使い方	9
-------------------	---

バックドア	9
半ドア警告灯	11
ルームランプ	12
非常警報装置	12
スライド式ステップ	13
プラットフォーム	14

手入れ、点検・整備項目	22
-------------------	----

定期点検整備	22
定期交換部品	23
消耗部品	23
簡単な点検	24
車の手入れ	28

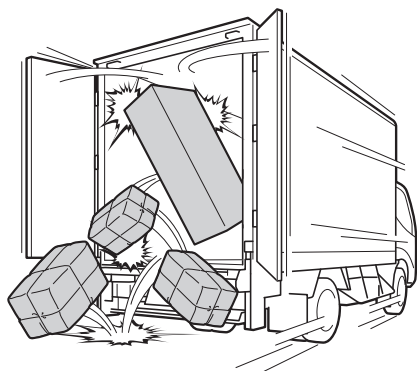
定期点検整備記録簿	29
-----------------	----

まず読みましょう

確認しましたか？

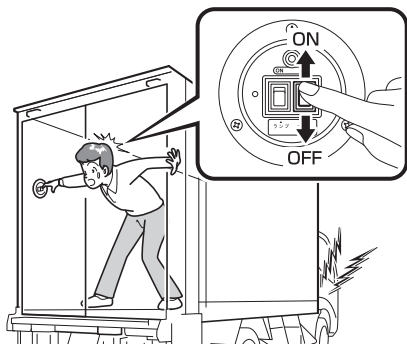
走行前にバックドアが確実にロックされていることを確認してください。

確実にロックされていないと、走行中にドアが開き、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。



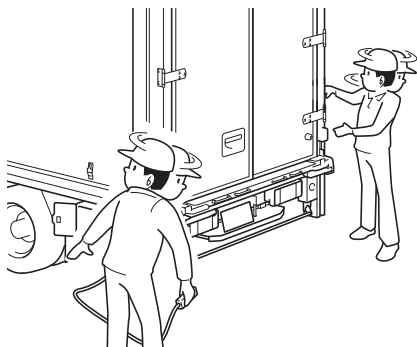
非常警報装置が作動すること（スイッチ「ON」でホーンが鳴ること）を運行前に確認してください。

装置が正常に作動しないと、万一荷室内に人が閉じこめられたとき、外部に知らせることができず、重大な事故につながるおそれがあります。



プラットホームを使用するときは、周囲に人や物がないことを確認してください。

プラットホームが人や物に当たり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



不整地や傾斜地での作業はしないでください。

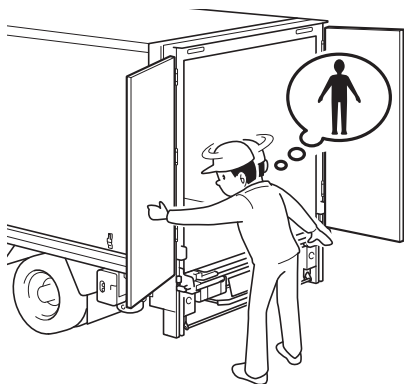
車両が傾いた状態での作業は、リフト装置の故障や寿命の低下につながるばかりでなく、積荷がプラットホームから転落するおそれがあります。



危険です！

バックドアを閉めるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。

万一荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができなかった場合に、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



作業時には必ずドアをドアストッパーで固定してください。

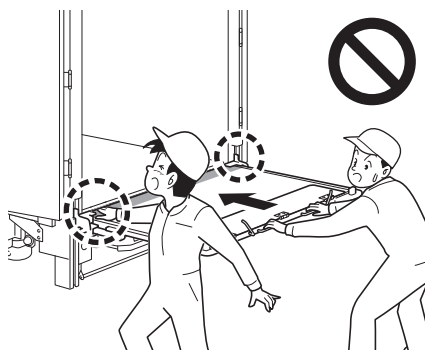
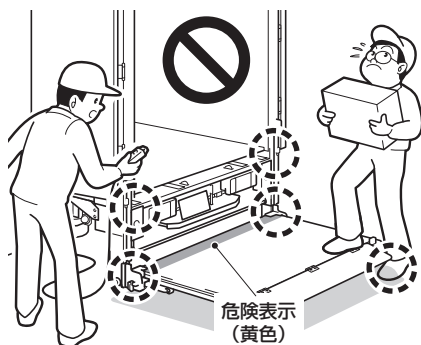
固定しないと風などにより、不意にドアが動いたり、傾斜地では自然にドアが動くことがあります、けがをするおそれがあります。



プラットホームの昇降操作をするときは、作動部分やプラットホームが接触するボデー部分に手や足を触れないでください。

手や足を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●プラットホーム上の危険表示（黄色の範囲）内には、絶対に手や足を入れたり積荷を載せたりしないでください。



プラットホームに乗って昇降操作をしないでください。

足元の注意がおろそかになり、転落やけがをするおそれがあり危険です。



ルーフ上にのぼらないでください。

ボデーの損傷やルーフからの転落など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

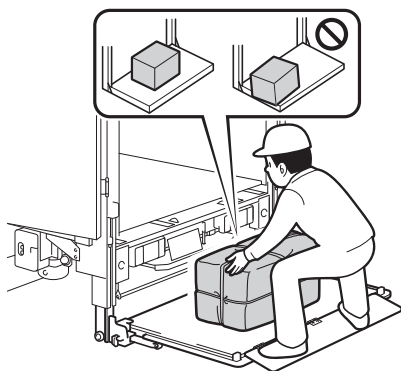
●積雪時、ルーフにのぼっての雪かきは絶対に行わないでください。



積荷を載せるときは

積荷はプラットホーム中央に載せてください。

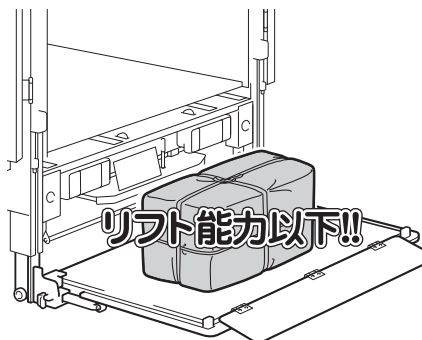
リフト昇降時の安全性は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）に左右されます。積荷をプラットホームの端に載せると、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。



載せすぎていませんか？

プラットホームへの積荷は必ずリフト能力（600kg）以下にしてください。

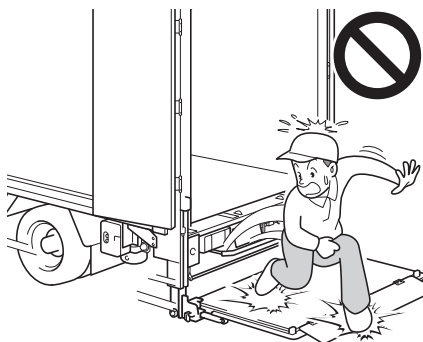
リフト能力以上積むとプラットホームは上昇しません。また、リフト装置の故障につながるおそれがあります。



走行するときは

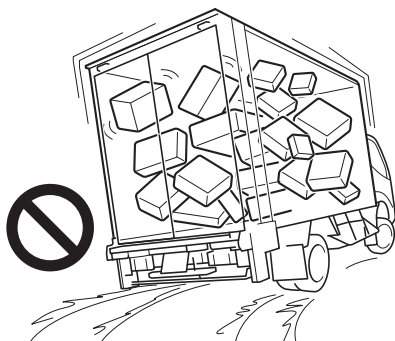
プラットフォームを引き出したまま車を移動させたり、放置しないでください。

プラットフォームが人に当たってけがをさせたり、物に当たって損傷するおそれがあります。



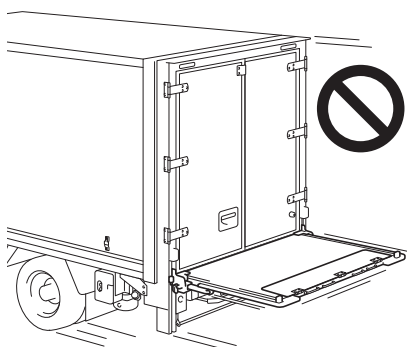
やむを得ない場合以外は、急ブレーキ、急ハンドルはしないでください。

荷くずれ、積荷の移動、落下のもととなり、積荷の破損の原因になります。



走行前にプラットフォームが確実にロックされていることを確認してください。

走行中にロックがはずれるとプラットフォームが飛び出すなど、プラットフォームの損傷や思わぬ事故につながるおそれがあります。



凍結などで動かないときは

雪や泥などが付着した状態でプラットフォームを操作しないでください。

雪や泥が付着した状態でプラットフォームを作動させると、リフト部品を損傷するおそれがあります。

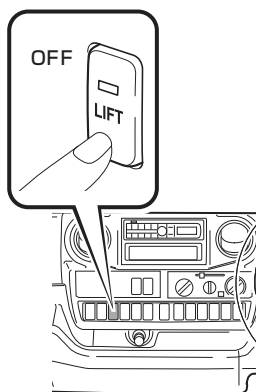
●プラットフォームに雪や泥などが付着したときは、それを取り除いてから操作してください。



車から離れるときは

**プラットホーム使用後は、必ず
メインスイッチを「OFF」にし
てください。**

メインスイッチを「ON」にしたままだと、誤ってリモコンスイッチを押してしまった場合に、意に反してプラットホームが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

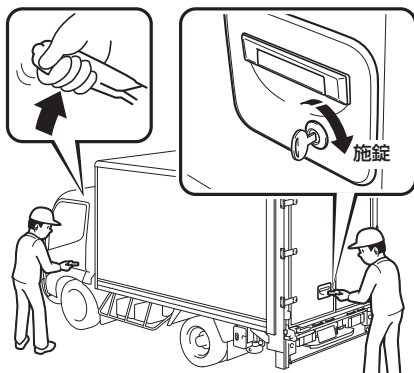


知識

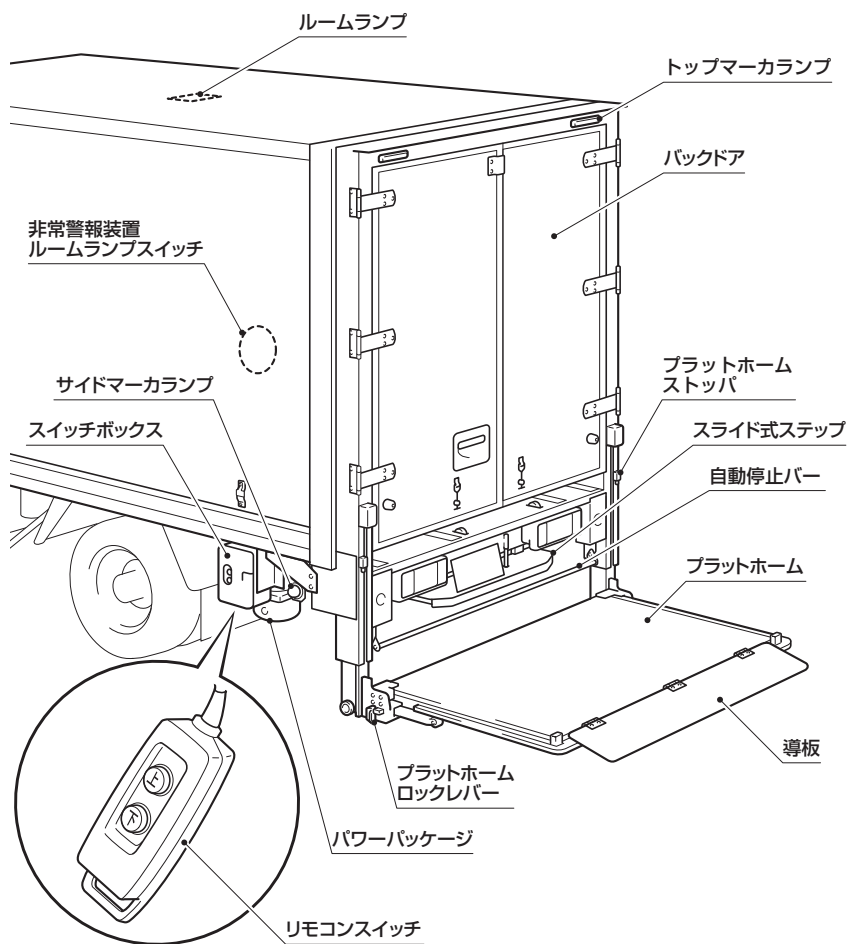
スイッチの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

**パーキングブレーキをかけ、必
ずエンジンを停止し、荷室内に
人がいないことを確認し、バック
ドアを施錠してください。**

- 無人で車が動き出したり、盗難のおそれがあります。
- 誤って荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 施錠していても車内に貴重品をおいたままにしないでください。



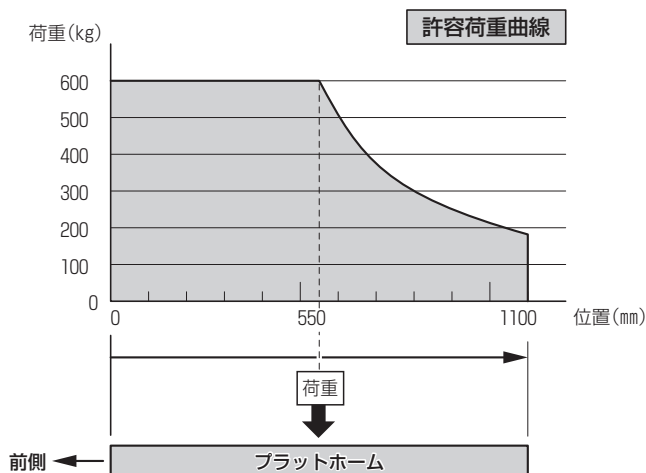
各部の名称



主要諸元

リフト能力

リフト能力は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）により決まります。プラットフォームに積荷を載せ、昇降させるときは、荷重と荷重重心位置が許容荷重曲線の下側にあることを確認してください。

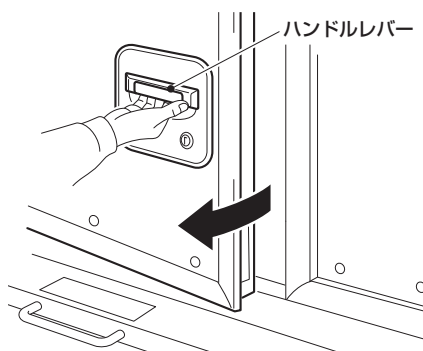


専用装置、装備の使い方

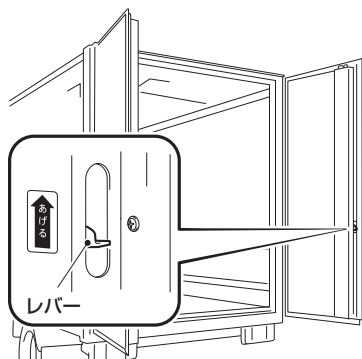
バックドア

■開け方

- 1 左ドアのハンドルレバーを手前に引いてロックを解除し、そのまま手前に引きます。



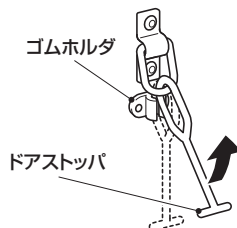
- 2 右ドアはレバーを押し上げてロックを解除し、ドアを引いて開けます。



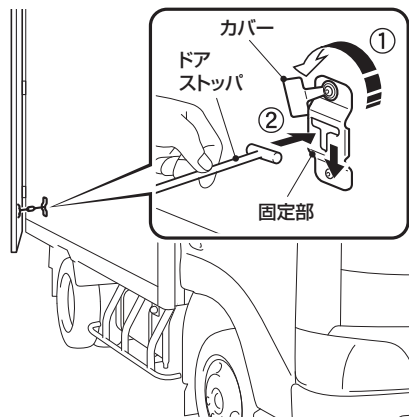
■固定のしかた

バックドアを全開にしたときは、ドアストoppaで固定してください。

- 1 ドアストoppaをゴムホルダからはずします。



- 2 カバーを開け (①)、ドアストoppaを固定部に差し込みます (②)。



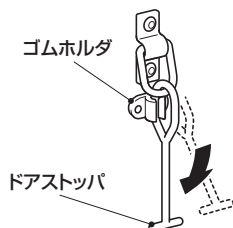
- 3 カバーを閉めます。

⚠ 注意

作業をするときは、必ずドアを全開にし、ドアストoppaでドアを固定してください。風などで不意にドアが動いたり、傾斜地では自然にドアが動くことがあり、ドアでけがをしたり、通行人を傷付けるおそれがあります。

■ 閉め方

- 1 右ドアのドアストッパを固定部からはずします。
- 2 右ドアのドアストッパをゴムホルダに差し込みます。



- 3 右ドアを車外から押して閉めます。
- 4 左ドアも右ドアと同様に閉めます。

⚠ 警告

バックドアを閉めるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができなかった場合に、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

■ 施錠のしかた（左ドアのみ）

キーを差し込み右にまわすと施錠、左にまわすと解錠されます。



⚠ 警告

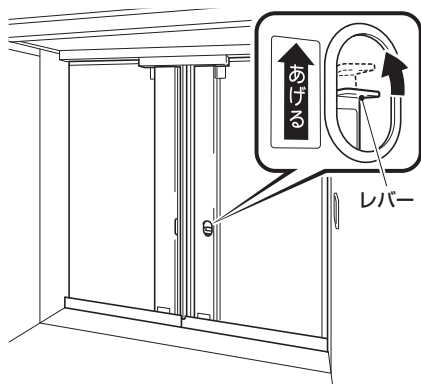
車から離れるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認し、バックドアを閉め施錠してください。誤って荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができなかった場合に、重大な事故につながるおそれがあり危険です。また、盗難のおそれもあります。

非常脱出装置

非常脱出装置は左ドア内側にあります。荷室内に閉じこめられたときに使用します。(非常脱出装置は非常時のみ使用し、通常は使用しないでください)

■開け方

左ドアのレバーを押し上げ、そのままドアを押して開けます。



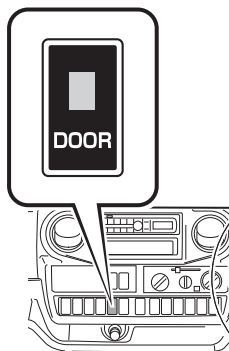
⚠ 注意

非常脱出装置を使用して左ドアを開けるときは、ドアをいきおいよく開けないでください。

- 左ドアが開いたとき、荷室内から転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 左ドアが車外の人や物にあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

半ドア警告灯

エンジンスイッチが「ON」のとき、バックドアが確実に閉められていないときに点灯します。



⚠ 注意

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。点灯した場合は、再度荷室内を確認してから確実に閉めてください。

🎓 知識

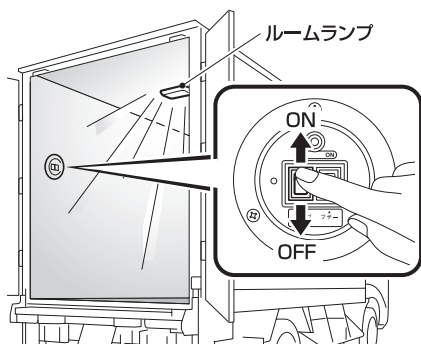
スイッチの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

ルームランプ

荷室内左側後部にルームランプスイッチがあります。

ON.....左バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

OFF.....ドアの開閉に関係なく消灯します。



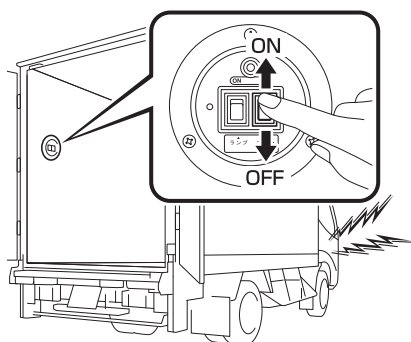
アドバイス

- 作業終了後や長期間車を使用しないときは、必ずスイッチを「OFF」にしてください。バッテリーあがりの原因になります。
- 点灯回数で寿命が変わります。必要なおとき以外は「OFF」にしてください。

非常警報装置

万一、荷室内に閉じこめられた場合に、荷室内から車のホーンを鳴らすことができます。

スイッチを「ON」にすると車のホーンが鳴り、荷室内に人が閉じこめられたことを外部に知らせます。



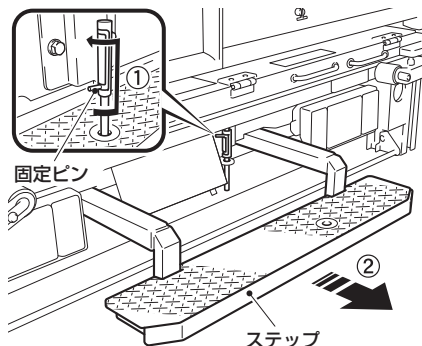
警告

非常警報装置が作動すること（スイッチ「ON」でホーンが鳴ること）を運行前に確認してください。装置が正常に作動しないと、万一荷室内に人が閉じこめられたとき、外部に知らせることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

スライド式ステップ

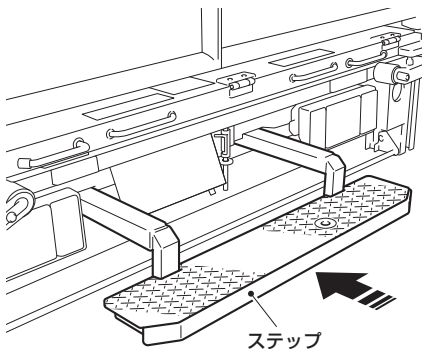
■ 使用するとき

固定ピンを上方にまわしてはすし (①)、ステップを持って引き出します (②)。



■ 格納するとき

- 1 固定ピンが上方に格納されていることを確認します。
- 2 ステップを持って押し込みます。

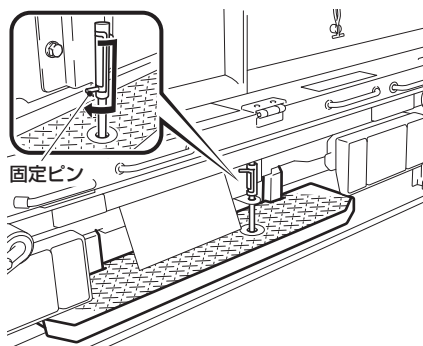


アドバイス

ステップを格納する前に、必ず固定ピンが上方に格納されていることを確認してください。固定ピンが下方に出た状態でステップを格納すると、固定ピンが破損するおそれがあります。

- 3 固定ピンでステップを確実に固定します。

● 固定ピンを下方にまわし、ステップの穴に差し込みます。



⚠ 注意

ステップを格納したときは、固定ピンで確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にステップが引き出され、車外の物にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

ステップが出ている状態では、プラットホームは作動しません。プラットホームの昇降操作をするときは、ステップが格納されていることを確認してください。

プラットホーム

プラットホームの引き出し・格納

⚠ 警告

プラットホームの作動部分や、プラットホームが接触するボデー部分に手や足を近付けないでください。手や足を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

プラットホーム使用前に周辺に障害物がなく、人の立ち入りがいないことを確認してください。プラットホームが人や物に当たり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プラットホームの引き出し方

- 1 車を平坦な場所に止め、必ずパーキングブレーキをかけ、タイヤに輪止めをします。

● エンジンはいかけたままにしておきます。

⚠ 注意

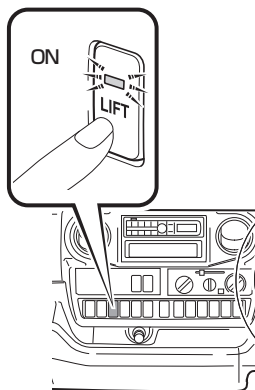
不整地や傾斜地での作業は行わないでください。車両が傾いた状態で作業を行うと積荷が落下するおそれがあります。



アドバイス

プラットホームを操作するときは、必ずエンジンをかけてください。エンジンをかけないとバッテリーあがりの原因になります。

- 2 メインスイッチを「ON」にします。



🎓 知識

スイッチの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

- 3 バックドアを全開にしてドアストッパで確実に固定します。(9 ページ参照)



アドバイス

プラットホームは必ずバックドアを 90° 以上開けた状態で固定してから使用してください。バックドアが 90° 以上開いていないと、プラットホームがバックドアに当たり、バックドアおよびプラットホームを損傷するおそれがあります。

- 4 スライド式ステップが確実に格納されていることを確認します。(13 ページ参照)

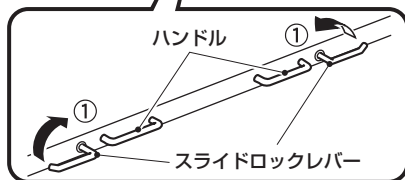
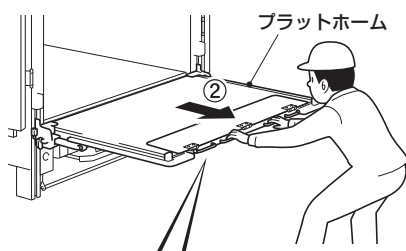


知識

ステップが出ている状態では、プラットホームは作動しません。プラットホームの昇降操作をするときは、ステップが格納されていることを確認してください。

- 5 プラットホームの左右のスライドロックレバーを引き上げ ①、左右のハンドルを持ってプラットホームをロックされる位置まで引き出します ②。

●ロックされるとスライドロックレバーが水平になります。



アドバイス

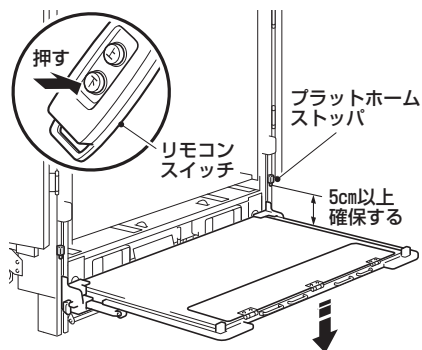
プラットホームの昇降操作をする前に、プラットホームが確実に引き出されていること（ロックレバーが水平になっていること）を確認してください。プラットホームが確実に引き出されていない状態で昇降操作をすると、プラットホームが損傷するおそれがあります。



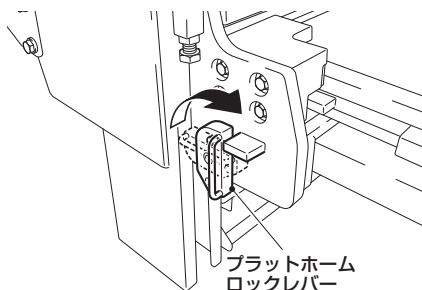
知識

長時間プラットホームの昇降をされなかった場合、プラットホームの引き出しが重くなる場合があります。その場合はリモコンスイッチの「上」を押し、プラットホームを上昇させてから引き出してください。

- 6 リモコンスイッチの「下」を押して、プラットホームを5cm以上（プラットホームロックレバーがまわせる位置まで）下げます。



- 7 プラットホームを停止状態にしてからプラットホームロックレバーを右に90°まわし、解除位置にします。

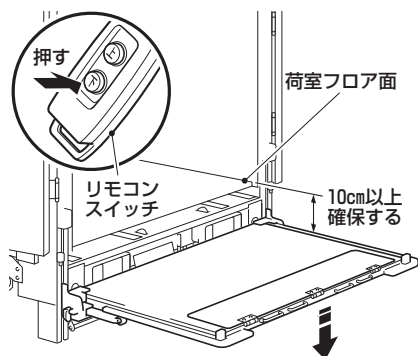


知識

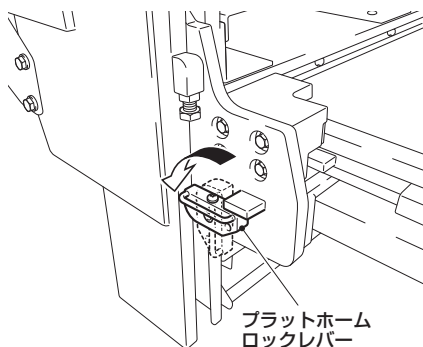
プラットホームロックレバーを解除位置にしないと、プラットホームを荷室フロア面まで上昇させることができません。

■プラットホームの格納のしかた

- 1 プラットホームが荷室フロア面まで上昇しているときは、プラットホームロックレバーがまわせる位置（荷室フロア面より10cm以上、下）までプラットホームを下降させます。



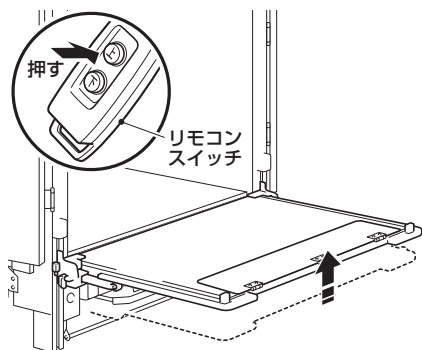
- 2 プラットホームを停止状態にしてからプラットホームロックレバーを左に90°まわし、ロック位置にします。



知識

プラットホームロックレバーをロック位置にしないと、プラットホームを格納することができません。

- ③ リモコンスイッチの「上」を押して、プラットホームを止まるまで上昇させます。

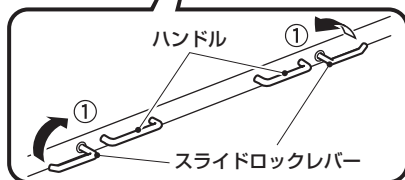
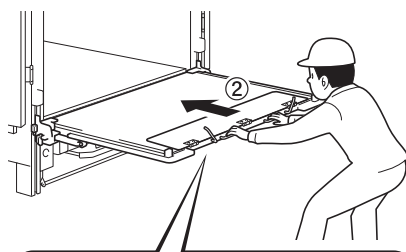


⚠ 注意

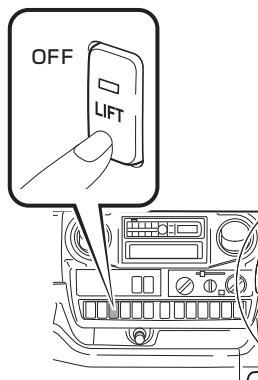
プラットホームに乗って上昇させないでください。足元の注意がおろそかになり、プラットホームから転落してけがをすることがあります。

- ④ 左右のスライドロックレバーを引き上げ ①、左右のハンドルを持ってプラットホームを持ち上げるようにしながらロックされる位置まで押し込み ②、格納します。

● ロックされると、スライドロックレバーが水平になります。



- 5 バックドアを閉めます。
- 6 メインスイッチを「OFF」にします。



⚠ 注意

作業終了後は、必ずメインスイッチを「OFF」にしてください。メインスイッチを「ON」にしたままだと、誤ってリモコンスイッチを押してしまった場合に、意に反してプラットホームが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🎓 知識

スイッチの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

プラットホームの昇降操作

⚠ 警告

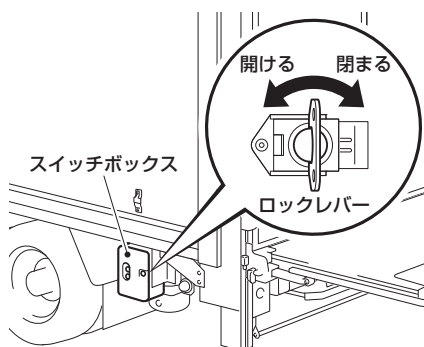
プラットホームの昇降操作をするときは、手足を挟まないよう、車から少し離れた安全な位置で行い、プラットホームの作動部分や、プラットホームが接触するボデー部分に手や足を近付けないでください。

⚠ 注意

操作前にプラットホーム接地面および周辺（特にスライドロックレバー周辺）に障害物がなく、人の立ち入りがないことを確認してください。

■ プラットホーム昇降のしかた

- 1 プラットホームが引き出されていることを確認します。（14、15 ページ参照）
- 2 スイッチボックスのロックレバーをまわしてロックを解除してカバーを開けます。

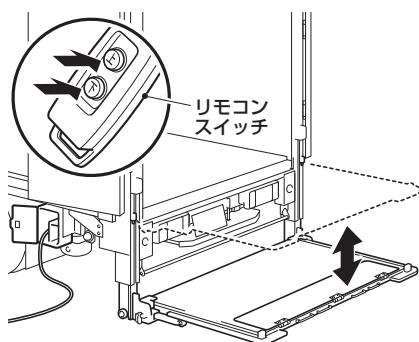


- 3 リモコンスイッチをスイッチボックスから取り出します。

※ リモコンスイッチはスイッチボックス内に収納された状態でも操作することができます。

- 4 リモコンスイッチの「下」を押している間プラットホームは下降し、「上」を押している間プラットホームは上昇します。

- スイッチの「上」「下」を押し間違えないよう注意してください。
- スイッチから指を離すと、プラットホームはその位置で停止します。



- プラットホームを上昇させるときは荷室フロア面まで上昇して停止したらスイッチから指を離してください。
- プラットホームを下降させるときは地面に接地して停止したらスイッチから指を離してください。

- 5 作業終了後はプラットホームを格納します。(16、17 ページ参照)

⚠ 注意

プラットホームに乗って昇降操作しないでください。足元の注意がおろそかになり、プラットホームから転落してけがをするおそれがあります。



アドバイス

- プラットホームを格納したまま操作しないでください。プラットホームが故障するおそれがあります。
- プラットホームをいっぱいまで上昇・下降させたら、スイッチから指を離してください。20 秒以上押し続けるとモータが故障する原因になります。

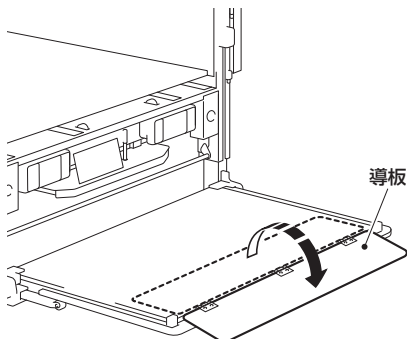


知識

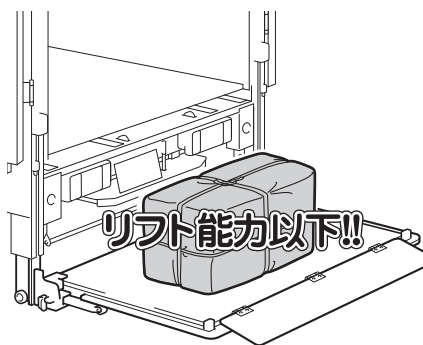
- リモコンスイッチの裏面は磁石になっていますので、車のボデーの任意の位置に取り付け固定することができます。
- プラットホームをいっぱいまで上昇させると、バックドアの開閉ができなくなります。必ずバックドアを開けた状態でプラットホームを操作してください。

積荷を載せるときは

- 1 プラットホームをいっぱいまで下降させ、導板を持って手前に倒します。

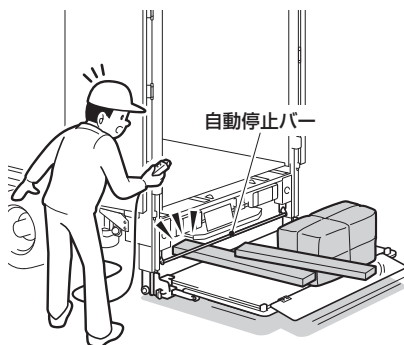


- 2 積荷は必ずリフト能力（600kg）以下とし、プラットホームの中央部に載せます。（8 ページの表参照）



■自動停止バー（緊急停止装置）

プラットホームが上昇途中、自動停止バーに物が接触すると、プラットホームが停止します。



⚠ 注意

- 積荷はプラットホームの中央より少し前寄りに載せてください。リフト昇降時の安全性は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）に左右されます。積荷をプラットホームの端に載せると、積荷が車両に巻き込まれたり、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- プラットホームが水平になっていることを確認してください。
- 積荷が滑り落ちないことを確認してください。プラットホームは積荷により傾くことがあります。

👉 アドバイス

プラットホームへの積荷は、必ずリフト能力以下としてください。リフト能力以上積むとプラットホームは上昇しません。また、リフト装置の故障につながるおそれがあります。

手入れ、点検・整備項目

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、29 ページの記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点 検 整 備 項 目		点検時期		交 換 時 期 (年)	備 考
		日 常 点 検	12 か 月 ごと		
電 気	非常警報装置の作動	○	○		スイッチ「ON」でホーンが鳴ること
	ルームランプのON/OFF	○	○		
	半ドア警告灯のON/OFF	○	○		ライトスイッチ「ON」で点灯すること
	トップマーカランプ・ サイドマーカランプのON/OFF	○	○		
ド ア	バックドア ・ 開閉時の作動状態	○	○		確実にドアが閉まり、半ドア警告灯が消え、引っかけり異音がないこと
	・ シールの摩耗・破れ	○	○		
リヤボデー	内外板の錆・破損・異常な浮き上がり ステップ曲がり・破損・ステーの変形 シャシとの締結ボルトの締め付け ボデー床下フレーム締結ボルトの締め付け マウンティング部のシムの摩耗	○ ○	○ ○ ○ ○ ○		
パ ワ ー リ フ ト 部	ワイヤ ・ 変形、損傷、摩耗 ・ グリース塗布 ・ ワイヤ交換	○	○ ○	2	
	ブーリ ・ 変形、損傷、摩耗 ・ 作動状態		○ ○		異常摩耗時交換
	ブラットホーム ・ 傾き、変形 ・ スライドの作動状態 ・ グリース塗布	○	○ ○ ○		しゅう動部
	スライドロックレバー ・ レバーの解除ストローク ・ ロック状態		○ ○		遊び代 ガタ、変形がないこと
	各部取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷		○		
	アームガイドステローラーのガタ、損傷		○		
	自動停止装置の作動状態		○		

点 検 整 備 項 目		点検時期		交 換 時 期 (年)	備 考
		日 常 点 検	12 か 月 ご と		
油 圧 装 置 部	油圧作動油 ・ 作動油の汚れ		○	2	新車時は3か月後
	配管部の異常 ・ 作動油もれ ・ 油圧ホース交換	○	○ ○	4	ユニオンナットのゆるみ、耐圧ホースのふくれ、すり切れ、破れ、クランプのはずれ、たれ下がり、フロア下面の油圧ホースの損傷がないこと
	パワーパッケージ ・ 取り付け部の締め付け ・ 作動状態および作動油もれ、異音		○ ○		
	シリンダ ・ 取り付け部のガタ、変形 ・ 作動状態 ・ 作動油もれ	○	○ ○ ○		引っかかり、異音がないこと

定期交換部品

架装物の機能・性能を確保し、安全に使用していただくため、下記の部品は定期的に交換をお願いいたします。

● 交換作業は販売店にお申し付けください。

交換時期（年）	部品名
2	油圧作動油（新車時は3か月後）、ワイヤ
4	油圧ホース

消耗部品

下記部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

● 交換作業は販売店にお申し付けください。

ドアウェザーストリップ、電球・ヒューズ、油脂類、ワイヤ、プーリ

簡単な点検

ヒューズの点検・交換

装置が正常に作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換してください。
● 標準車の取扱書の『ヒューズ』のページをあわせてご覧ください。

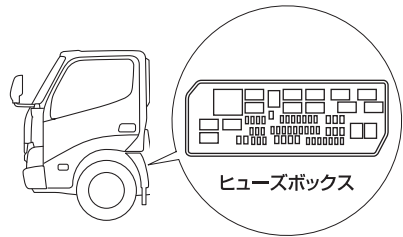
警告

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあり危険です。

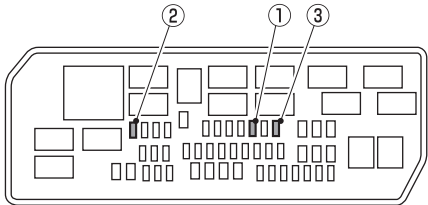
アドバイス

取り替えてもまたヒューズが切れる場合は、販売店で点検を受けてください。

■ 室外ヒューズボックス

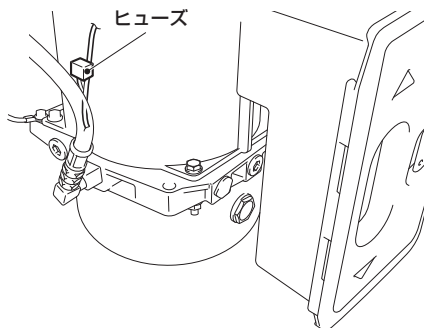


ヒューズボックス



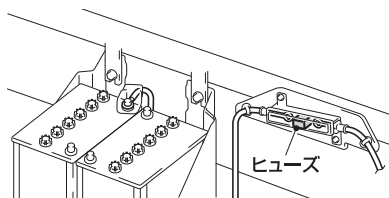
ヒューズ名称	ヒューズの受け持つ主な装置名称
① P-BATT	ルームランプ、非常警報装置
② P-IGN	半ドア警告灯
③ P-TAIL	マーカランプ

■ パワーパッケージ内



アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15A	リモコンスイッチ

■ バッテリー⊕端子部



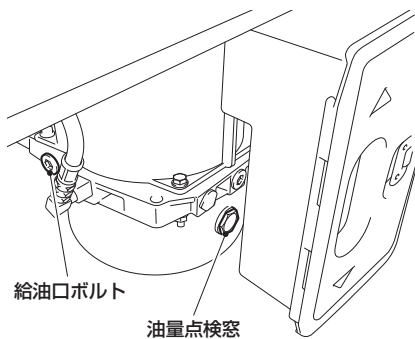
アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
60A	プラットフォーム昇降用モータ

作動油の点検

■ 点検のしかた

プラットフォームをフロア面まで上昇させた状態で点検します。

- パワーパッケージの油量点検窓のほぼ中央部まで作動油があれば適量です。



■ 補給のしかた

- 1 作動油不足の場合は、給油口ボルトをはずし、オートフルードWSを補給します。

作動油規定量※1
2.0L

※1：規定量は参考値です。



アドバイス

指定の作動油以外は絶対に使用しないでください。油圧装置の故障につながるおそれがあります。

- 2 作動油補給後、3～5回プラットフォームを動かして、ポンプおよび回路内のエア抜きをしてください。

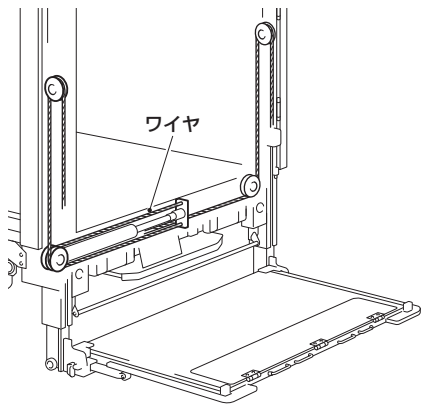
灯火類

種類	ワット数
ルームランプ	24V/5W
サイドマーカランプ	24V/2.4W
トップマーカランプ	24V/1.2W

ワイヤの点検

- 1
- プラットホームの左右の傾き（左右差 3mm 以下）の有無を点検してください。
- 2
- プラットホーム下降位置でのワイヤ切れを点検してください。

上記の点検で異常が見つかった場合は、販売店で点検を受けてください。



■ワイヤの交換基準

交換基準2 年間
（プラットホームの上昇・下降回数が 1 日当たり約 20 回を目安）

使用回数が多い場合は点検を頻繁にして、下記のような異常が認められたときは、ただちに交換してください。

- 300mm あたりの素線切れが 10 本以上あるとき



- 直径の減少が公称値の 7%をこえているとき
基準寸法.....6 φ mm、8 φ mm



- 著しい形くずれ、または腐食があるとき



⚠ 警告

ワイヤに異常が認められたときはただちに交換してください。そのまま使用するとワイヤの折損となり、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

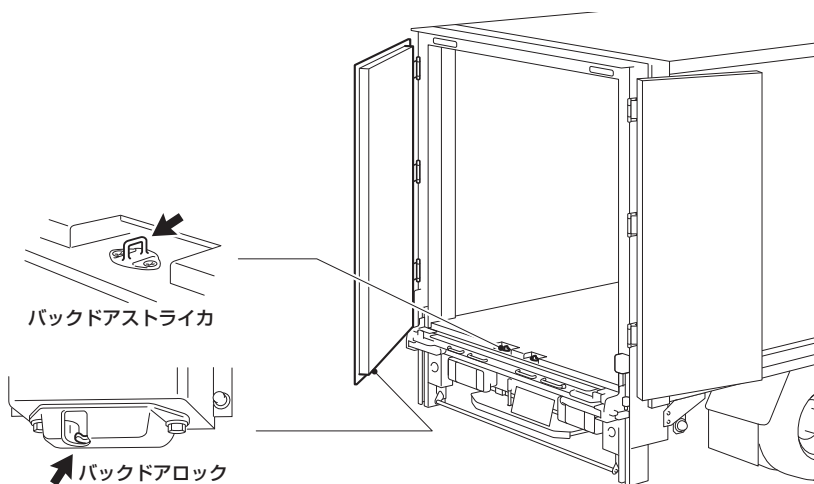
ワイヤを交換するときは、プーリもあわせて交換することをおすすめします。また、交換作業は販売店にお申し付けください。

給油脂

下記部位の箇所にグリースを塗布してください。

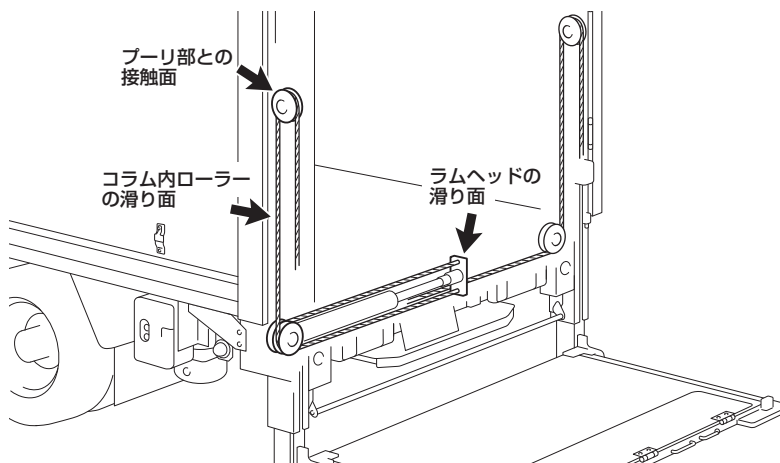
バックドア部

塗布時期 3 か月ごと



スライドリフト部

塗布時期 12 か月ごと



車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

■ 次のような場合は、ただちに洗車をしてください

塗装の劣化や車体・部品の腐食などを早める原因になります。

- 海岸地帯の走行をしたとき
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

■ 塗装について

- 飛び石傷やかき傷は、ボデーの腐食の原因になりますので、見つけたら早めにタッチアップペイントなどで補修してください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤が付着したときは、塗装を損傷しますので、ただちに拭き取る、洗車するなどしてください。

■ 外板の手入れ

水洗いをします。

- 汚れのひどいときは、中性洗剤を使用します。
- 毛の硬いブラシなどは使用しないでください。



アドバイス

洗車するときは積荷のないときに行ってください。特に高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドア周辺に近付けすぎないでください。近付けすぎると水圧が高いため、荷室内に水が入るおそれがあります。



■ 内板の手入れ

濡れたふきんで拭いてください。

12か月定期点検整備記録簿

分解整備記録簿											
診断なし	異常なし	レ	交換	X	締付	T	清掃	C			
調整	修理	△	分解	○	給油	L	省略	P			

点検の結果および(分解)整備の概要

電気点検

☐	非常警報装置の作動
☐	ルームランプのON/OFF
☐	半ドア警告灯のON/OFF
☐	トッパマーカーランプ・ サイドマーカーランプのON/OFF

ドア点検

☐	バックドア ・開閉時の作動状態
☐	シールの摩擦・破れ

リヤボデー点検

☐	内外板の錆・破損・異常な浮き上がり
☐	ステップの曲がり・破損・ステーの変形
☐	シャシとの締結ボルトの締め付け
☐	ボデー床下フレーム締結ボルトの締め付け
☐	マウンティング部のシムの摩擦

■油圧装置点検

☐	・油圧作動油 ・作動油の汚れ
☐	・配管部の異常 ・作動油もれ

・パワーパッケージ

☐	・取り付け部の締め付け ・作動状態および作動油もれ、異音
--------------------------	---------------------------------

・シリンダ

☐	・取り付け部のガタ、変形
☐	・作動状態
☐	・作動油もれ

■24か月ごとの交換

☐	・油圧作動油の交換 (新車時は3か月後)
☐	・ワイヤの交換

■48か月ごとの交換

☐	・油圧ホースの交換
--------------------------	-----------

■パワーリフト点検

☐	・ワイヤ ・変形、損傷、摩擦 ・グリース塗布
--------------------------	------------------------------

☐	・変形、損傷、摩擦 ・作動状態
--------------------------	--------------------

・ブラットホーム

☐	・傾き、変形
☐	・スライドの作動状態
☐	・グリース塗布

☐	・スライドロックレバー ・レバーの解除ストローク ・ロック状態
--------------------------	---------------------------------------

☐	・各部取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷
☐	・アームカイストアローラーのガタ、損傷
☐	・自動停止装置の作動状態

-----	依頼者の氏名又は名称	-----	依頼者の氏名又は名称及び住所	-----
住所				

-----		メンテナンスに関するアドバイス		-----
型式		初年度登録または初年度検査年		
自動車登録番号又は車両番号 (左記の無い車両にあっては、車台番号)				
自動車分解整備事業者の氏名又は名称及び事業場の所在地				
氏名又は名称				
事業場の所在地				

-----	-----	-----	点検の年月日	-----
-----	-----	-----	年 月 日	-----
分解整備 (点検) 時の総走行距離	整備を完了した年月日			
	-----	-----	年 月 日	-----
	-----	-----	年 月 日	-----
整備主任者の氏名				

ボデー型式			
架装物名	アルミバンS(スライドリフトスマーティ)		
ボデーNo.			
お客様の 業種・積載物	架装 メーカー名	トヨタ 車体(株)	

アルミバン S (スライドリフトスマーティ)

適用車種

トヨタ ダイナ、日野 デュトロ



車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

〈本書の内容のお問い合わせは下記へお願いいたします〉

商用事業部

TEL (0566) 36-2497 FAX (0566) 36-2498